

第 3 期岩倉市地域福祉計画 令和5年度進捗評価シート

基本目標	2 誰一人取り残さない、寄り添う支援がある地域(まち)づくり
施策	(1) 孤独・孤立化の防止

<現状と課題>

・雇用環境や人々のライフスタイルの変化、さらには核家族化や未婚化・晩婚化が進んだことなどにより、地縁・血縁によるつながりが希薄化しています。さらに近年では経済情勢の悪化や新型コロナウイルス感染症の影響も加わり、孤独を感じたり、どことも・誰ともつながりを持てず孤立する人に関する問題が顕在化してきました。 ・このような状況を受け、孤独・孤立は個人の問題ではなく社会全体で対応しなければならない問題であるとの認識のもと、国において令和3年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」が策定されました。 ・つながりたいのに孤立している状況、孤独感を強く持つ状態は、自殺という最悪の事態につながってしまう場合があります。本市では平成30年に「岩倉市自殺対策計画」を策定し、生きることの包括的な支援や様々な分野と連携した総合的な施策展開等を方針として掲げ、施策を推進しています。 ・孤独・孤立を生まない地域にしていくためには、誰かとつながることができるきっかけや居場所が必要です。本市では、主に高齢者を対象としたサロンや、自分のペースで過ごすことができる居場所を設置しています。人と人がつながることができる、そして必要な場合は支援につなぐことができる、様々な居場所づくりを推進していく必要があります。
--

成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	指標数値根拠 担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
孤独感や孤立感を「大いに感じる」、「感じる」市民の割合	14.6%	-						10.0%	第3期地域福祉計画策定に合わせて実施したアンケート指標のため実績なし。次回は計画見直しのR8年度実施予定。	市民アンケート 福祉課

単位施策:11 生きることへの支援(岩倉市自殺対策計画の推進)										
・各福祉施設や小中学校等において、多世代による交流や体験活動等の機会を提供します。また、認知症サポーター養成講座を開催し、地域で認知症の人を見守り、支える環境づくりを促進します。										
成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11		
ゲートキーパー研修参加者数(累計)	350人	398人						500人	ゲートキーパー研修のテーマや参加者募集チラシを工夫することで順調に参加人数を増やしている。	福祉課
事業								取組内容及び成果		課題及び今後の方向性
●ゲートキーパー研修		福祉課						年間2回の研修を実施し、内1回を「悩みを抱えやすい高齢者への寄り添い方や支援」とすることで、2回目の一般的なゲートキーパー研修と内容を差別化した。		実施内容や周知方法の工夫等により、受講者数の増加を目指す必要がある。
●臨床心理士によるこころの健康相談		健康課						市民が気軽に相談できる環境を整え、こころの健康に関する相談に応じ、必要な指導及び助言を行うことにより、精神疾患の予防及び早期治療につなげる取組として、毎月2回、計24回の相談日を設		引き続き、気軽に相談できる環境を整え、こころの健康に関する相談に応じ、必要な指導及び助言を行う。

		け、相談者数は延 44 人だった。市民の精神的な不安を軽減し、こころの健康の保持増進を図ることができた。									
●その他											
単位施策:12 身近な居場所づくりの支援											
・地域における多様な居場所づくりを支援します。また、多世代で交流できる場や創出することで、誰もが孤立することなく、つながりあえる関係づくりを促進します。											
成果指標	現状値	実績値						目標値	実績値に対する分析	担当	
	R3	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11			
サロン等の地域の居場所の数	19 か所	20 か所						30 か所	サロン立ち上げの相談 2 件のうち、新たに 1 か所設立されました。また、運営相談が 3 件あり、内容の充実を図るための支援を行った。	社会福祉協議会 長寿介護課	
事業							取組内容及び成果		課題及び今後の方向性		
●こころの居場所あみ〜ご		福祉課、健康課、社会福祉協議会						精神障がい者家族会が毎月第 3 金曜日に開催する「こころの居場所あみ〜ご」の運営支援を関係機関と連携して行い、延べ 182 人の参加があった。 健康課保健師があみ〜ごの活動支援を行い参加者のこころの健康に関する相談に応じた。		引き続き、関係機関と連携し、「こころの居場所あみ〜ご」の運営支援を行う。 あみ〜ごの参加につながらない人への支援が必要だと思われる。	
●高齢者交流サロン活動費助成金		長寿介護課						新たなサロンの立ち上げに 1 件、既存のサロン 5 件に補助金を交付し、立ち上げと活動の支援を行った。		引き続き、高齢者交流サロンの活動や立ち上げに補助を行い、支援していく。	
●ふれあい・いきいきサロン活動		社会福祉協議会						市内 7 支会において、高齢者昼食会や地域交流会等を 10 件実施し、高齢者の介護予防や地域住民のつながりづくりを図った。		地域の実情に合わせた取り組みを行っていく。	
●子ども食堂支援		社会福祉協議会						子ども食堂 3 か所へ助成金を交付した。また、食料支援等の情報提供や実施内容等に対して相談支援した。		助成や広報活動への支援を行う。	
●多世代交流センターさくらの家、南部老人憩いの家、児童館、地域交流センター、ひろば等		長寿介護課、子育て支援課						多世代交流センターさくらの家では、紙芝居の開催や、子育て支援センターによるおでかけひろこ広場の開催、また、南部老人憩いの家では、敬老会の翌日の日曜日に臨時開館として、老人クラブに委託し、誰もが参加できる催しを企画するなど多世代交流に努めた。 各児童館で、老人クラブ会員との地域交流会を開催し、世代を超えた交流を深めることができた。		多世代交流センターさくらの家については、令和 7 年度から指定管理者制度の導入予定であり、指定管理を行う事業者と多世代交流が図れるような講座の実施に向け協議していく。 引き続き、児童館等で多世代の交流の場を作っていく。	

●大切な人を亡くされた人のお話会				長寿介護課	「大切な人を亡くされた人のお話会」を3回開催し、23人の参加がありました。また、保健師や地域包括支援センター職員も聞き役として参加した。 大切な人を亡くした経験をもつ人同士が話をする機会を設け、心の痛みを和らげることなどに努めた。	引き続き、心の痛みなどを和らげる機会として開催するとともに、会の開催方法や運営方法についても参加者の意見を聞きながら検討していく。
●その他						
事務局評価	取組 2	指標 Ⅲ	評価 B	評価理由	生きることへの支援、身近な居場所づくりの支援とともに既存の事業を活用しながらある程度取組ができています。サロン等の地域の居場所数については目標の達成に向けて地域のニーズを考慮したサロンの立ち上げ支援を行うとともに、運営支援を併せて行っていく必要がある。	
推進委員評価	B			推進委員評価 判断理由・コメント	孤独・孤立化の防止に向けてある程度取組が進んでいるが、今後も積極的に推進してもらいたい。	